中央労福協ニュース
NEWS LETTER
労働者福祉中央協議会（中央労福協）
発行人　花井　圭子
No . 140
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町 3-8　中北ビル 5F
TEL　03-3259-1287　URL　http://www.rofuku.net

雇用・貧困問題の背景に“嫁福祉”

第 56 回 全国消費者大会 竹信三恵子教授が講演

3 月 16 ～ 17 日、千代田区内で第 56 回 全国消費者大会が開催された。

中央労福協が担当した「雇用・貧困・社会保障分科会」では、ジャーナリストで和光大学教授の竹信三恵子さんが講演し、介護･育児･家事などの負担を専ら嫁に任せる“嫁福祉”を前提とした社会から脱出することが、わが国の雇用問題、貧困問題等を解決する糸口になると指摘した。分科会には 58 名が参加した。

熱弁する竹信教授＝16 日、東京都内

竹信教授は、スウェーデンやオランダ、韓国などの社会保障や雇用制度と比較しながら、日本の雇用・貧困・社会保障問題の背景に“嫁福祉”への依存が関係している具体的な事例を紹介、問題点を指摘した。

講演後、参加者は 5 班に分かれ､①家事労働に依存した「働き方や社会保障」のあり方について､②その際の財源をどう考えるか―の 2 つのテーマでグループワークを行い、その後、竹信教授とディスカッションした。

参加者からは､地方や世代間での“嫁福祉”の捉え方のギャップ､配偶者控除制度の壁､財源確保（累進税または間接税）についてなど、多くの質問があった。竹信教授は「介護・育児の嫁任せを前提に現在の雇用制度や社会保障制度があるという現状を可視化し、皆さんのような団体が声を上げることで制度改善を行って頂きたい」と締めくくった。

労金運動をより深める取り組みを展開しよう

― 労働金庫運動中央推進会議が全体会議を開催 ―

4 月 5 日、労働金庫運動中央推進会議（以下、労金中推会議）は千代田区内で第 41 回全体会議を開催。構成組織 32 団体および労金協会・連合会常勤役員 8 名、中央労福協を含むオブザーバー 8 名が参加した。冒頭、木村裕士議長（教育文化協会専務理事）が「運動をより一歩進めるきっかけとして、今回初めて講演と分散会を実施する」と本会議の狙いを述べた。

労金協会からは、中江公人理事長の挨拶のあと、加藤幸博専務理事が労金協会の第Ⅱ期中期経営計画案および 2018 年度事業計画の概要説明を行った。労金中推会議からは、安藤栄二事務局長（労金協会常務理事）が 2018 年度取組方針案、中央労福協・全労済中央推進会議との連名による産別訪問の要請文書案、規程改正案（オブ参加に関する条文を明記。中央労福協は三役会と全体会議にオブ参加している）について提案し、いずれも確認された。

2018 年度取組方針では､①議案書掲載 ･②機関誌掲載 ･③学習会開催の 3 項目要請を継続しつつ、各組織の状況や課題に応じた活動の展開を通じて、加盟組合と各金庫の関係強化と利用促進に繋げていく取り組みを目指すこととした。

続いて、中央労福協・高橋均アドバイザーが講演し、改めて労金運動の歴史と意義について認識の統一を図った。その後、5 グループで分散会を実施。自組織における労金との連携状況や今後取り組みたいこと等について積極的な発言が出された。

最後に、長年にわたり労金中推会議を支えてきた木村議長が今回で退任し、新たに安永貴夫 議長（連合 副事務局長）が就任することが報告された。

会場の様子＝5 日、東京都内

退任職員紹介

塩原 洋光 さん

中央労福協７年１か月の在任中は、各般にわたり格別のご指導をたまわりましたこと、あらためて厚く御礼申し上げます。後任の小川氏は連合大学院の一期生を修了するなど、気鋭のメンバーです。何卒よろしくご厚誼のほどお願い申し上げます。

４月より労金協会にて不肖私は、非営利・協同セクター間の連携強化、非正規労働者の福祉向上、利用促進・共助拡大等の推進・研究にあたります。先進地域事例の研究、会議などでもお世話になるかと存じます。また、学生時代より縁ある貧困格差・社会的公正の運動、多重債務の取り組みもライフワーク的に継続してまいります。同じ労働者自主福祉運動でのポジション移行ではありますが、いま、運動の中で生きることの尊さ素晴らしさを深く感じています。

これまでのご厚誼に感謝申し上げ、皆様のご健勝と事業団体・協同組合運動・労働者自主運動の発展へ決意と祈念を込めて、ご挨拶といたします。より一層のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。拝

新任職員紹介

小川 俊明 さん

皆さま、はじめまして。この４月より労金協会から出向してまいりました、小川と申します。労金協会では主に人事教育や広報渉外、営業推進などを担当しておりました。直近では組織渉外担当として様々な労働団体の皆さまとお付き合いさせていただいているうちに、導かれるように中央労福協へ参りました。クセがスゴイ前任の塩原事務局次長に比べると、かなり薄めのキャラですが、末長く可愛がっていただければ幸いです。

趣味はサッカー、音楽鑑賞、路地裏探索などです。マニアでもなく、ミーハーでもなく、ゆるりと楽しんでいます。

歳の割には未熟で不勉強な部分も多く、ご迷惑をおかけする場面も多いかと思いますが、皆さまのお役に立てるよう精一杯頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

連載㉝　二〇一八年四月

大杉栄と鈴木文治・賀川豊彦との論争と友情（前号の続き）
～協同組合外伝⑫

大杉栄は、「資本と労働は協力調和というよりもむしろ一致融合すべきものである。しかしこの関係は決して資本家と労働者との関係ではない。この二つの関係はまったく別々のものである」と言う。鈴木文治や賀川豊彦にはその区別がないために、資本家と労働者の調和＝労資協調論になるのだと批判する。同時に、争議指導の方法にも疑義を差し挟む。工場内の労働者から交渉権限を取り上げ、資本家との一切の交渉を請け負ってしまう。これでは労働者自身の自主性が育たないと酷評する。「労働者には自主自治の観念が薄く、とかく中央集権的、強権的な思想感情に陥りやすい。自分のことは自分でするというしっかりした自主心がなければ、労働者は旧社会破壊の道具にだけ使われてしまう」と大杉は心配するのだ。つまり、大杉の鈴木・賀川批判は、幹部請負型の中央集権的手法か労働者の自主性を尊重する分権自治的手法かの違いにその核心がある。だから革命を起こしたロシアに対しても、共産党を頂点とする中央集権的な専制共和国が生まれただけだと批判したのだった。

では、大杉の分権自治的手法とはどのようなものだったのか。「いっさいの社会問題、いっさいの労働問題は、資本と労働との分割に帰因する。したがって、そのもっとも徹底した解決法は、この分割の廃止、すなわち共同資本と共同労働とになければならない」。大杉は、自分たちで資本を持寄り、自分たちで働きながら経営するという「労働者協同組合」を展望していたのである。

それでも、鈴木は大杉のことを「世事を気にせず、明るく、世間離れした趣があり、あっさりしていて、名誉、利益などに執着せず、純情で、情熱的で、生一本な性格で多くの労働者を引き付けていた」。また、「演説もらい」の手法についても「無政府主義者に、ほとんど言論の自由が認められなかった当時としては、これもまたかなり有力な宣伝方法であった」ときわめて好意的に評価している。賀川も、事件後の「改造」十一月号の「大杉栄追想」に「可愛い男大杉栄―悪口言われても悪い気はしない」と寄稿している。論敵にもエールを送る鈴木や賀川の友情と懐の深さに見習うところは多い。（高橋均）